

【中学校 国語】

全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

1 平均正答率等について

本市の中学校国語の平均正答率は69%で、全国の平均正答率と比べ▼0.8%下回りましたが、県の平均正答率と同じでした。「話すこと・聞くこと」の平均正答率が82.3%（全国82.2%、県81.6%）と、全国・県よりも上回っています。しかし、「読むこと」の平均正答率が61.0%（全国63.7%、県61.3%）と低くなっています。また、「知識・技能」の観点の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は67.0%（全国67.5%、県68.3%）と低くなっているのが特徴です。

2 特徴が見られた問題

よくできていたのは「インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する」という問題（全国△2.2、県△2.8）でした。この結果から、目的や場面に応じて質問する内容を検討することができていると考えられます。

課題とする、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の漢字を書く問題、「読むこと」領域の問題です。

③ 一二 文章中：「おし量って考える」

一線部のひらがなを漢字に直し、楷書で丁寧に書きなさい。

正答： 推（し）

本市の平均正答率は（41.4%）、全国（43.9%）、県（45.6%）で、全国・県を下回りました。この結果から、文脈に即して漢字を正しく書くことに課題があると考えられます。

② 一二

問題の概要：二つの文章を読み、二つの文章に共通している表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する問題。

- 選択肢： 1 主張に関わる言葉を引用することで、伝えたいことを印象付けている。
2 敬体でていねいに述べることで、伝えたいことを身近に感じさせている。
3 問いかけを用いることで、伝えたいことに興味をもたせている。
4 冒頭の一文に結論を示すことで、伝えたいことを明確にしている。

正答： 1

本市の平均正答率は（58.0%）、全国の平均正答率（63.0%）県の平均正答率（59.8%）で全国を大きく下回りました。この結果から、観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える問題に課題があると考えられます。

3 これからの学習に当たって

同音異義語を中心に文の中で漢字を正しく使う指導を繰り返し行うことが必要です。タブレットを効果的に活用し、ドリル問題に取り組むとともに、作文等の「書くこと」領域の学習を中心に適切な漢字を使う指導をしていくことが大切です。

「読むこと」領域に課題が見られるため、生徒が主体的に文章を読むことができるような授業改善に取り組んでいきたいと考えています。また、自分の考えを広げたり深めたりする読書活動を進めていく必要があると考えます。